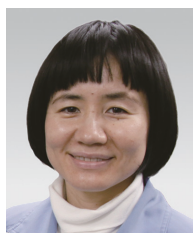


# 小さな“気になる”を追いかけて



## 鈴木仁子

日本分光(株)光分析ソリューション部  
[192-8537] 八王子市石川町 2967-5  
課長, 博士(理学).  
専門は分光分析.  
<https://www.jasco.co.jp/jpn/home/index.html>

未来を担う学生の皆さん、そしてキャリアの途中にいる若手研究者や社会人の皆さんへ、こうして言葉を届ける機会をいただき、とても光栄に思います。一方で、私は子どもの頃から「将来はこれをやりたい!」と夢を強く思い描いていたわけでもなく、志を胸に抱いて研究者を目指したわけでもありません。だからこそ正直に申し上げると、「いったい何を書いたらいいのだろう……」と、パソコンの前でしばらくフリーズしておりました。けれど、数日悩んだ末に、「格好つけるのはやめよう」と気持ちを切り替えることにしました。私の場合、高い志や大きな夢がなくても、日々目の前の何かに向き合っていたら、自然と経験が増えていき、結果的には成長の実感を味わいながら、楽しく仕事を続けてこられたように思います。その等身大の歩みこそ、お伝えする意味があるのではないかと思います。

私は分析機器メーカーで研究開発の仕事をしています。この文章を書いている気がついたのですが、分析というのはとても好都合な世界です。というのは、「これをやりたい!」「これじゃなきゃ嫌だ!」という強い意志をもっていても、あるいはもってなくても、どちらの道も選択できるからです。世の中は分析対象にあふれています。思いつくことを列挙してみます。医薬品の品質管理、食品の安全性評価、プラスチックの劣化解析、半導体材料の微量不純物分析、文化財の顔料解析など、分析の出番は実に多様です。ですから、幅広い分野を横断的に経験することもできますし、逆に一つの専門を深く掘り下げることだってできます。分析業界のこの器の広さのおかげで、私のように「とくにこれがしたい」という強い動機や理想もなく、将来のことをうすぼんやりとしか考えていなくても、常に学び続けてここまで続けてこられたのだと思います。

目の前に転がっている分析対象をどうやって分析しようか? もっと良くする方法はないか? 分析法がないなら新しく作ってみよう……そんなことを繰り返しているうちに、知識や経験が積み重なり、多くの人との出会いにも恵まれました。そして、その時々のお会いにおいて「とりあえずやってみよう」という小さな選択を積み重ねていった過程で、社会人として働

ながら博士課程に進学し、平日は仕事、週末は研究という生活を送りました。また、大学で教育にかかわる機会もいただき、現在は管理職として若手メンバーの育成にも携わっています。

こうして書くと順調な道のように見えるかもしれませんが、もちろん実際はそうではありません。むしろ、新しいことへの挑戦のたびに力不足を痛感します。そして、歩いていても、お風呂に入っているだけでも、何をしても、ずっと何かを考えている状態はよくありません。そして、仕事と学業の両立は人生で最も大変だった時期と言えると思います。大学在学の3年間は休暇がほとんどなかったですし、睡眠時間を削る生活でした。それでも続けてこられたのは、好奇心に加えて、「まあ、なんとかなる」と自分に言いかけながら、なるべく楽観的でいようとしたことによると思います。

こうして振り返ってみると、私のキャリアは決して計画的でも、一直線でもありません。良く言えば柔軟、悪く言えば行き当たりばったりで、その場その場で頼まれたことをこなしたり、興味をもったことを深掘りしてみたり、何か出会いがあれば手を挙げてみる。そんな積み重ねが、たまたま今につながっているだけです。

学生の皆さんだけでなく、社会に出て数年が経ち、『このままで良いのだろうか』と感じている若手の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実際、学生さんや若手社員に「将来どうなりたい?」と尋ねても、迷いのない答えが返ってくるのはまれです。でも、私のように大きな人生の目的がなかったとしても、日々の興味を追いかけていると、いろいろな経験ができて、振り返ってみるとかなり充実しているな、と思います。ですから日常の中でふっと心が動く瞬間に、小さな「気になる」を見逃さず、少しだけ手を伸ばしてみるのも良いのではないかと思います。歩幅が小さくても、その一歩一歩がやがて線となり、いつか振り返ったときに「あ、結構楽しいかも」と思えるのではないかな、と。今は曖昧に思える選択も、きっと未来のどこかで役に立ちます。どうか自分のペースで、自分らしい未来を築いていけますように。